

■ 発言要旨

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
1	他の会場に出ていたご意見等ですが、スクールバスの下校便が2便出るのかというご質問や、統合することで人数が増えるとトラブルが増加するのではないかと心配の声、窪川小へいきなり統合ではなく、令和6年4月に2校を統合した場合でも、その後の人口減少によって何年か後に窪川小へ再統合するのではないかと不安の声、新しい学校をつくるイメージということで校名、校章、校歌のことがどのようになるか質問があったところです。統合に向けての交流事業はどのように考えているかといったご質問もありました。
2	学校の校区のことですが、統合が進み松葉川地区に小学校が残った場合に、校区を広げる考え方はありませんか。窪川地域は条件を付けてどの学校でも通学できますよという考えはありませんか。 窪川小は良い学校だと思いますが、その学校に合わない子もいると思います。合わない子には小さな学校にも通えますよという選択肢があると、子どもは小学校時代に楽しい時を過ごすことができると思います。 校区外就学の件かと思いますが、現在でも事情によっては例えば窪川小の校区にいる児童が七里小へ通学するという例も教育委員会に諮って理由によっては認めています。ただ、そういった場合はスクールバス等は手当てできませんので、保護者の方等による送迎をお願いしております。
3	校区を取り払う考えはないですか。 あくまでも校区は校区として設定をしているところです。 2ページ一番下です。「必要に応じて、通学区域の見直し、学校統合と校区の見直しの併用のについて検討する」とあります。東又地区で出ていた質問ですが、仁井田小の校区において、小向や富岡が東又小の校区に近いと思いますが、その地区の保護者や地域が望めば、東又小へ校区を変更することも可能ですかという質問がありまして、先日の仁井田会場にて保護者にお話をしたところ、保護者の方によって考え方は異なると思いますが、出身保育園が異なるし厳しいのではないかとのご意見があったところです。 先ほどのご質問ですと、東川角や西川角あたりが現在は窪川小校区になっておりますが、校区を見直して松葉川校区に校区を引き直すのはどうかということかと思います。先ほどの例に照らしますと、例えばその地区の児童が松葉川保育所に通っている割合が高いのであれば、そういった話もあるかも分かりませんが、いずれにしても今後の協議によるかとは思っています。
4	スクールバスの件で、授業形態によっては下校便を2便出すという説明でしたが、窪川小と統合した場合のみの話ですか。米奥小と七里小の2校が統合しても出る話ですか。 現在、町内でスクールバスの運行をしているところはそういった運用をしていますので、米奥小と七里小の2校の統合の場合でもそういった運用になります。
5	スクールバスに関連してバスの運転手の確保ですが、交通事故の確率論で言うと高齢ドライバーの事故が全国的に多発している中で、イメージとして現状スクールバスを運転されている方も60～70代の方がハンドルを握られているイメージがあるのですが、統合によってバスの台数・距離を含め増えると思うのですが、運転手の確保や健康診断や何かしらの病気への罹患率など、今の現状の仕組みとバスの運転手の確保について、どのような計画を立てているか伺いたいです。 四万十交通さんに委託している路線もあれば、個人の方に委託している路線もあります。今後、もしかすると、四万十交通さんに全線委託するという方針転換も選択肢の一つとして考えていかなければいけないかなと思っています。私たちも心配するところがあって、できるだけ若い方に運転していただきたいと思っているのですが、なかなか人がいないというのが現状で、探していかなければならないという状態です。健康診断も特に役場が実施しているわけではありませんので、今後考えていかなければならないことだと思います。窪川地域のみならず、大正・十和地域でも同様の課題を抱えています。 なお、朝のアルコールチェックは実施しております。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
6	正直、今日話を聞いて不安しかありません。米奥小と七里小が統合するとすると、いつの時点での判断となりますか。 令和3年5月の児童生徒数により判断をするわけですが、令和6年以降も引き続き60人以上が確保されていくということであれば、松葉川地区で1校は残しましょうということになっております。
7	米奥小と七里小を統合した後に、窪川小へ統合することはありますか。 令和6年4月に米奥小と七里小を統合したとすれば、やはりこういった書き方をしている以上は、すぐに再統合ということは考えるべきではないと思います。それが10年後なのか20年後なのかというのは、しっかりと見ていかなければならないと思いますが、令和6年4月に統合して、すぐに人数が減り出したので再統合をするということにはなりません。ただ、どこかで先も見ながら協議もしながらいかなければいけないと思います。
8	令和3年5月の児童数をみて判断ということでしたが、現在の推計では令和7年までは60人います。もし、米奥小と七里小を統合するとなれば、校舎位置はどちらになりますか。 核心の部分であると思います。推計では60人を超えているような状況ですので、どちらの校舎へという話は推進本部会の方でも、また審議会の方でもないわけですが、令和3年5月の時点でしっかりと推計が見えていくと思いますので、60人をその後も超えていくような状況であれば、協議をしていく必要があらうかと思います。今日の時点で校舎位置の明言はできませんが、米奥小は普通教室が6教室になると教室数が足りなくなりますが、だからと言って必然的に七里小になるという捉え方ではいけないと思います。それぞれ課題もあらうかと思います。
9	米奥小も七里小も土砂災害警戒区域内に校舎がありますよね。どちらへ統合しても児童が通学する上で危険性はありますよね。予算的には難しいかと思いますが、新校舎を建築するのはどうでしょうか。 6ページをご覧ください。校舎の建築年は七里小が平成7年、米奥小は平成4年、体育館は七里小は昭和52年、米奥小は昭和58年、プールは七里小は平成6年、米奥小は平成10年になっています。両校とも土砂災害警戒区域内に属しています。土砂災害の危険性のあるエリア内に校舎がありますので校舎の建替えはどうかというご質問でしたが、すぐに建築しますとはお返事できないわけですが、子どもたちの安全性を確保する部分で、今後の統合に向けた話し合いの中でも論点として出てくると思いますので、その中で整理をしながら協議をしていきたいと考えております。 この航空写真をご覧ください。イエローゾーンなので確実に必ずということではないと思いますが、七里小は急傾斜地のエリアにも属しています。 校舎であれば鉄筋コンクリート造ですので、垂直避難という2階に避難する考え方もありますし、大雨警報が出れば学校が休校になったりする確率が高いですので、どのように判断をするかによりますが、例えば家に子どもだけにいる場合に、山際にある家もあるかと思いますが、そういう危険もあるのかなと思います。ホームページ等で、土砂災害警戒区域等の情報も出ておりますので、学校も危険、自宅も危険であるならば、避難所へ避難することも検討していただければと思います。
10	学校が避難所になっていますよね。 町の危機管理課も含めて、避難所の変更も検討していかなければならないと思います。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
11	先日、七里小と米奥小と松葉川保育所の父兄10名くらいで意見交換をしましたが、以前は米奥小と七里小で統合という話があったときは反対もありましたが、米奥小と七里小の統合は致し方ないとの意見がありました。保育園も松葉川保育園で一緒ですし、知っている子ばかりですので馴染みやすいだろうという意見は大半でした。 ただ、窪川小へ統合となると、前回の意見交換会でも出ておりましたが、運動会の時の問題であるとか、土砂災害とか、危険地域ということであれば、窪川小も吉見川の氾濫ですね、そういった意見もありますし、そういう不安要素もあります。統合の計画を見ると、60人が確保できるのであれば松葉川で1校残すということで動いてくれているのかなと思うのですが、松葉川地区で1校残していただきたいです。そこで問題なのは、校舎位置です。七里小の保護者の中にも受入れのハードの面では米奥小しかないのではないのかという意見や、人数の多い方が少ない学校へ行くのはおかしいのではないのかという意見、なかなかまとまりにくいと思います。 全員の意見ではないと思いますが、そういった意見は出ると思っていました。松葉川保育所の運動会を見ても、ちょうどですね、規模でいっても、和気あいあい度でいっても、ちょうどかなと思って拝見しておりました。今後の児童の推計がどうなっていくかということになるんですけども、意見として1校残していただきたいという意見があったわけですので、記録には残しておかなければならないと思います。 一気に窪川小の方へ統合してくれという方もいるかもしれません。いろいろとご意見を伺って計画を進めていきたいと思っています。
12	統合ありきで考えたときに松葉川地区で1校というのは致し方ないと思います。ただ、いままで通り米奥小は米奥小、七里小は七里小という地域性を大事にしながら、米奥であれば夏のお祭りであるとか、いまは七里とも交流を図りながら国際交流とか協力しながらやっているの、何とも言えませんが、できれば元々の形で残るのがベストだと思います。 小学校の保護者だけで話しても、令和6年統合の将来的な話なので保育園の保護者たちにもしっかり自分のこととして捉えてもらいたいということで、今年の松葉川保育所の会長が保護者に向けてアンケートを取っております。結果としては、半分以上が統合は反対ということでした。保育園の保護者はなかなか自分事として捉えにくい時だと思いますが、アンケート調査をとったらそういう結果も出たということをお伝えします。 それぞれの学校を残したいという想いは、どこの学校も同じですが、この人数を見るとなかなかそれは難しいのかなと、判断が決めにくいのかなと思います。松葉川地区に1校残すということになれば、次にやっぱり少なくなったので窪川小へ統合するという考えを持ったらいけないと思います。その地区で残すのであれば、残しきると町も思わなければならないですし、地域の皆さんも残していくんだということで、町の振興策プラス地域の盛り上がりで1校は死守すると、ずっと代が替わっても守るという想いで残していただきたいです。そのためには、判断ですね。令和3年度の児童数をもって令和6年度どうなるのか、その後どうなるのかの判断で残していく覚悟ですね。町も地域の方も話し合いの下で持っていていただいて決めたいと思っています。最終的に決めるのは町長です。
13	窪川小へ統合した方がいいという意見がある中で、最低担保ラインの60人がボーダーラインだと思います。そういった中で松葉川地区に1校残したい保護者と窪川小への統合を希望する保護者とで、例えばお宅が窪川小へ行ったから松葉川は残らなくなったとか、窪川小へ行きたい想いがあったので、校区外申請して教育委員会で計った結果、窪川小へ行くとかになったときに60人が担保できない状況が想定され、松葉川地区に1校残らなくなることも考えられます。それ以前にこの数が足かせになって人間関係で変な軋轢が生まれるのではないかと不安に思います。 適正規模の10人について、言い切るのではなく、程度とか曖昧な表現にすると変なわだかまりなく話が進むのかなと思います。 計画としては決定しておりますので、この文言を直すということはありません。この計画を基に今日も説明をさせていただいております。意見をいただいて最終的に判断をするときには落としどころもあるかと思いますが、言い切れないのが、この計画であります。概ねとか、基本的にといった表現は入れずにこのままです。判断には、いろいろな事情があると思います。 議会でも、例えば1クラス9人であった場合はどうなのかと質問がありましたが、あくまでも原則は計画の人数であると答弁したところです。
14	数字が微妙なボーダーライン上ですので、いろいろな意見があると思います。例えば中学生や高校生にご兄弟がいて、なにかしらの理由で転出をしなければならないとかいう家庭の足かせにもなっているんじゃないかなと思います。 微妙な数字ですね。仁井田地区は厳しい状況ですが、松葉川地区はもうちょっと考えやすいのかなと思います。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
15	小学校の適正規模ですが、1学級10人～、6学級60人～とありますが、令和3年度に判断する際には、10人と60人ともに満たしていないといけませんか。 基本的には1つの小学校で6学級、複式学級にならない学級編制を基準に考えております。
16	人数の幅はありますか。 あくまでも10人、60人が基準です。
17	21ページに「四万十町では移住定住等の取組に力を入れている」とありますが、これは町としては持続的に力を入れていくんですね。それをするのであれば、若い移住者をもし希望するのであれば、子どもの環境というのを一番に考えるんですね。ここに住んでみて思ったのは、窪川小も確かに魅力的な学校ではあると思いますが、窪川小のような学校は他にもいっぱいあるわけです。四万十町に移住者を呼び込みたいのであれば、何を判断に、これから近いうちに若者が来るかという、子どもを育てる環境をどう考えるかということを大きな割合で考えていると思うんですね。この小学校だけではないですが、まだまだ昔ながらの自然いっぱいの小学校が残っているということが、いま四万十町にとって大事なことであると思いますので、そういったことも加味して、これからの取組を考えていただきたいと思います。 町としても、良い学校ばかりですので、それぞれの学校は残したいんです。地域の学校として置いておきたいんですけど、教員の配置の関係等があって、児童数・学級数を確保しなければなりませんので、やむを得ずこういった計画を立てているんですが、松葉川地区で1校残すという書き方は、しっかりと学校を地域に残しておきたいという町の気持ちなんです。一気にということではなくて、数がそこそこ整っておれば1校残したい思いがありますので、決して学校を集中させたいわけではありません。そういう気持ちが表れていることを汲んでいただければと思います。
18	複式学級が正常な姿ではないことは分かります。ただ、米奥小を見ていただければ分かるように学力にしても、先生にしても、伸び伸びと子どもたちを教えている姿を見ますので、複式学級が全ていけないという考え方は改めていただきたいなと思います。 複式学級については、限られた教員数の中で一生懸命創意工夫しながら、授業もそうですし、授業以外の活動についても本当に頭が下がる想いです。新聞を見られた方もおられるかと思いますが、小規模校や複式学級を否定しているわけではないというのは、本当に先生方一生懸命やったださっている、学力も決して低いわけではない。ただ、これも学校によってや年によって、点数だけ言えば高い年もあれば低い年もあります。これは、どこの学校でもあります。我々も一番目指しているのは個々をしっかりと伸ばしていく、平均そのものが伸びるようになれば良いわけですが、1年生の時よりは2年生の時、2年生の時よりは3年生の時といったように徐々に成長するに従って、子どもたちが成長していくところをしっかりとしていきたいと思っておりまして、今回どういったところが1番かという、やはり子どもたちに向かう先生がしっかりと学年ごとに見ていってほしいなと思っております。そういったところで、適正規模は小学校が10人、中学校20人となっております。四万十町内の学校は、ほとんど小規模校です。子どもたちも良い思い出もいっぱい作ってもらって、地域の方々の力も借りながら、米奥小もそういった形でいっておりますが、完全複式学級となっております。校長先生1名、教頭先生1名、教諭が2名の計4名で一生懸命やっていただいております。研修があつたり、1ヶ月以上の病休等であれば代替講師の配置がありますが、1週間や2日3日の病休等については講師の配置がありません。そうすると先生方の中で工夫しながら子どもたちを見ていかなければならない状況が出てくるわけです。 複式学級を否定しているわけではありませんが、これも上手にやっていかないと、子どもたちが45分の中で1学年についていると1学年はしっかり学習をする、学び合いをする、自習をする。それも先生方一生懸命工夫もしていただきながらやっていただいております。しかし1学年に1名ずつ先生についていただいて、子どもたちを見ていってほしいなという想いの中で今回適正配置計画を策定したところです。 松葉川地区で青年団ができたということで動きを作っていただいて、若い方々が中心になって地域を盛り上げていこうという動きは素晴らしいことであると思います。子どもたちが育っていくうえでも、ふるさとの良さということは感じてもらえると思います。